

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 聖ウルスラ学院英智小・中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒984-0828  
宮城県仙台市若林区一本杉町 1-2

E-mail : teachers@st-ursula.ac.jp

Website : \_\_\_\_\_

児童生徒数：男子 178 名 女子 309 名 合計 487 名  
 児童・生徒の年齢 7 歳 ~ 15 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

本校3年生で実践した内容について以下に記す。

実践テーマ「仙台の伝統文化を探る」

(1) 活動について

カテゴリ：食      サブカテゴリ：交流活動

本活動は、今年度9月4日（水）～6日（金）に行われる宿泊学習のプログラム内にある、山形県新庄市立新庄小学校とのユネスコスクール間交流会を見据えた学習である。宿泊学習の事前学習にあたる。

本テーマを設定した理由は、主に2つである。1つは、児童が2年生のとき、かまぼこ工場の見学に行ったことがあることから、学習内容の効果的な発展が望まれる点。もう1つは、宿泊学習での、現地（山形県金山町）体験プログラムにおいて「食」分野のものが豊富であり、金山における「食」と仙台における「食」との違いを宿泊学習の中で学ぶことが期待される点である。

以上の理由から、このテーマを設定した。教科の位置づけとしては、社会・理科の発展学習となる。

(2) 活動目的

- ①自分たちの住む地域の特産物についての興味・関心を持つ。
- ②食文化のルーツを探る手立てを知る（書籍・インターネットによる情報検索と、自分たちの考察）。
- ③相手を意識した発表活動を通じて、相互に意見交換を行う議論の土台を作る。
- ④班ごとのグループ活動の中で、集団の中での役割分担を学ぶ。

(3) 学習計画・実践（全8段階中、現在段階6を実践中）

【段階1】 宿泊学習の生活班ごとに、教員側から提示した項目をそれぞれ調べる。調べるに当たっては、書籍、コンピュータを用いる。

- ・ささかまぼこグループ・・・歴史、作り方、原料、行方
- ・ずんだもちグループ・・・歴史、作り方、原料、えだまめの育て方、調理方法

【段階2】 調べた内容をハンドアウトにまとめ、発表の準備をする。指導した。

【段階3】 発表会を行う。

発表の流れは、以下の順である。

1班の発表（5分）→質問タイム（3人まで）→2班の発表（5分）→質問…

発表の際、聞く側の児童にはワークシートへの記入をさせた。このワークシートは、相互に資料及び発表を評価し合うものである。具体的には、ハンドアウトへの評価、発表そのものへの評価を、◎○△の3段階で行い、コメントも簡単に記入する。また、発表会を終えた後、テーマに対しての「自分なりの答え」を記入する欄も設けた。

【段階4】 テーマに対しての回答を議論する。

段階3において出した児童の「自分なりの答え」を一覧にしたものをもとに、学年全体でテーマに対しての議論を行った。具体的には、自分たちが出

した、「ささかまぼこやずんだもちが仙台名物になった理由」が、それぞれ理由として妥当であるか否かを、話し合っ て決めていった。その中で、妥当とされた意見を、後の発表資料作成に反映させることとした。

【段階5】 新庄小学校との交流会に向け、資料を作成する。

交流会に向け、ささかまぼこ、ずんだもちそれぞれ模造紙1枚で発表資料を作成した。発達段階と児童の人数を考慮し、模造紙全体のレイアウトは教員側から提示し、児童は与えられた枠の中に、自分たちが段階1で調べた担当箇所の資料作成に取り組んだ。なお、交流会では、各班より1名が代表となり、合計9名が発表をする。それに向け、各班、発表者のために発表原稿を作成した。

【段階6】 発表練習をする。

発表担当となった児童が、発表の練習をする。夏休み直前に発表者には発表原稿全文を渡し、練習を促した。夏休み明け以降、原稿の分担を行い、実際に資料を用いた練習を行った。

【段階7】 宿泊学習へ行き、交流会で発表をする。

【段階8】 事後のまとめを行う。

宿泊学習へ行き、改めて、仙台市の食文化と、体験してきた山形県金山町の食文化とを比較・対照し、学習全体をふり返る。

#### (4) 成果と課題

- ①段階2及び3の発表の際に見られた、聞き手を意識した入念な準備児童は「質問タイム」に出てきそうな質問を予想し、その答えをきちんと用意した上で発表に臨んでいた。実際、質問が出た際には、どの班もすらすらと回答していた。
- ②段階3の発表で見られた、能動的に発表を聞く態度ワークシートの記入をするよう指導したが、どの児童も自分なりの観点で発表を評価し、テーマに対して答えを出すよう努力していた。
- ③課題としては、どの段階でも班単位で活動していたが、グループ活動に積極的な児童とそうでない児童とで取り組みに差が生じてしまった。児童をよく観察した上でのグループ分け、個々に応じた支援が必要である。

